

CITY OF YOKOHAMA

がんの早期発見に向けた新たな取組

明日をひらく都市
OPEN X PIONEER

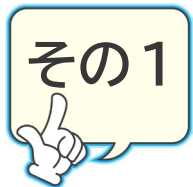
早期発見に向けた横浜市の新たな取組

1月

- 1 子宮頸がん検診におけるHPV検査の導入
- 2 70歳以上の方の精密検査を無料化

11月

- 3 がん検診を受けやすく（検索サイトを新たにオープン）
- 4 遺伝性乳がん卵巣がん症候群（HBOC）検査への新たな助成



子宮頸がん検診におけるHPV検査の導入

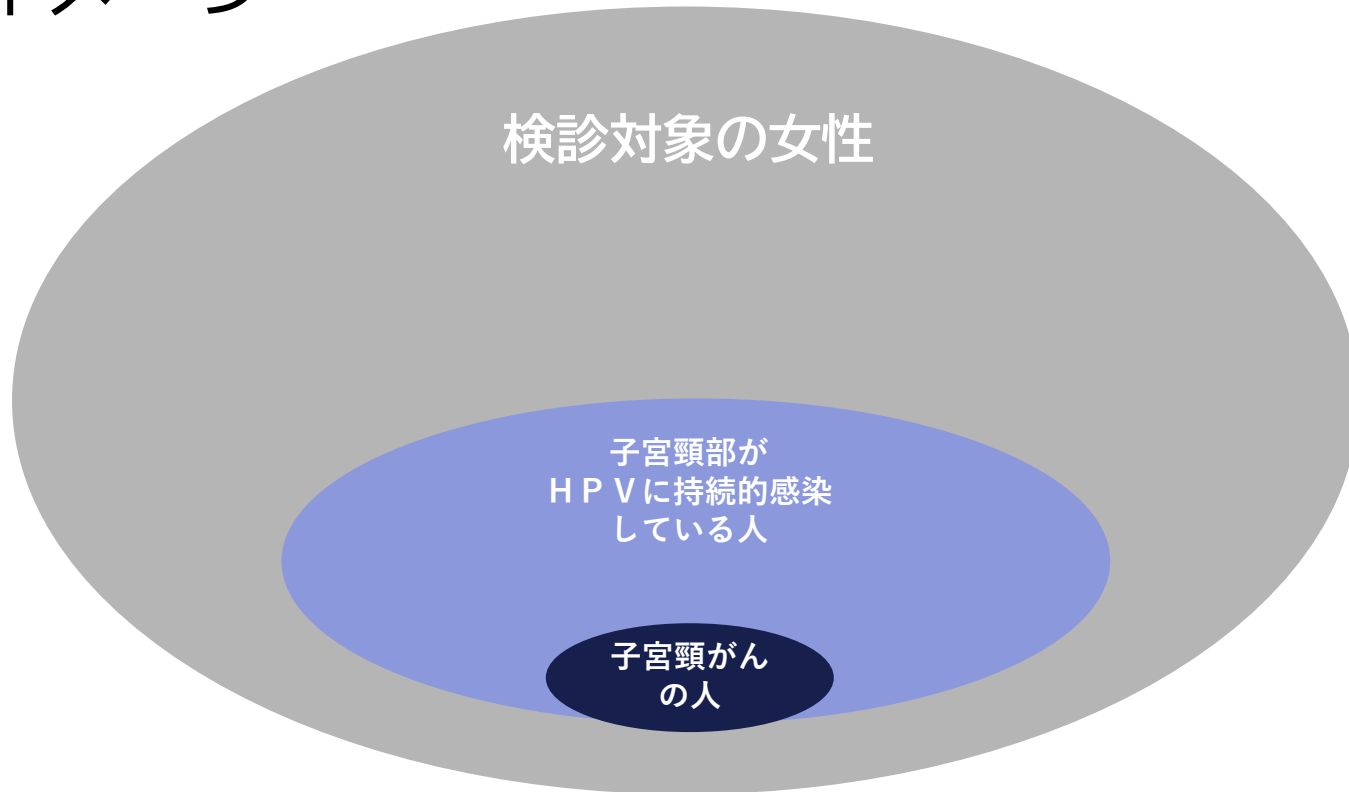
- ・ 欧米で推奨されているHPV検査を、
全国に先がけて、新たに導入

子宮頸がん検診の新たな検査

HPV検査単独法 を
令和7年1月 から開始します

全国初の取組としてスタート！

イメージ



HPV（ヒトパピローマウイルス）とは

性交が主な感染源で、経験を有する人の多くが生涯に一度はHPVに感染する。ほとんどは1年～2年以内に自然に消退するが、一部の人は持続感染して子宮頸がんの原因となる

横浜市の子宮頸がん検診

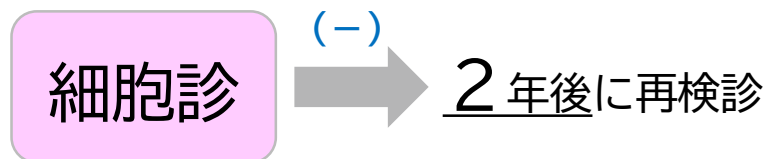
	対象年齢	受診間隔	内容
現在の 子宮頸がん検診	20歳以上	2年に1回	細胞診



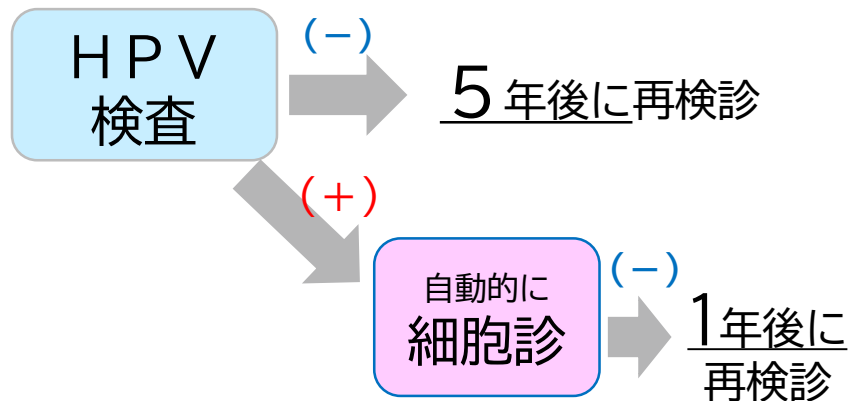
	対象年齢	受診間隔	内容
新たな 子宮頸がん検診	30-60歳	5年に1回	HPV検査 単独法
	20-29歳、61歳以上	2年に1回	細胞診

HPV検査単独法の導入後のイメージ

現在の検査方法



HPV検査単独法



- 細胞診

異常な細胞があるかないか顕微鏡で調べる検査

- HPV検査

HPV感染の有無を調べる検査

多くの受診者は検査間隔が2年から5年へ

- がん検診の未受診理由で最も多いのは「受ける時間がないから」
→検診受診の負担を軽減することで、受けやすくなる

一律の検診からリスクに応じたトリアージへの転換

- HPV検査の結果に基づく細胞診できめ細かいフォロー

対象者、費用など

■ 令和7年1月～8年3月末の対象者（①②を満たす方）

- ① 市内在住の30歳以上60歳以下の女性 約78万人
- ② 令和6年4月から12月末までに横浜市子宮頸がん検診を受診していない方
(令和6年4月から12月末までに受診した方は、令和8年度に受診できます。)

■ 検査費用（自己負担額）

2,000円（前年度住民税非課税世帯の方などは無料）

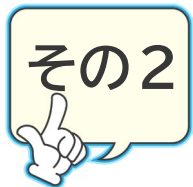
■ 実施医療機関

約190か所 ※ウェブサイトで検索できます。

受診のご案内などについて

対象の方に、受診のご案内、検診票などをお送りします。
2回目以降の検査については、適切な時期に受診のご案内をします。

発送予定	対象者
12月20日	国民健康保険加入の 30歳～60歳女性
1月10日	他の健康保険に加入の 30歳～45歳女性
1月24日	他の健康保険に加入の 46歳～60歳女性



70歳以上の方の精密検査を無料化へ

- ・ がん検診を受け、がんの疑いあり「**要精密検査**」となった方は、精密検査を受け、がんがあるかないかを確認することが重要です。
- ・ 70歳以上の方を対象に、令和7年1月以降に横浜市がん検診（無料）を受診して、精密検査が必要となった場合の検査費用を助成します。

イメージ①

市内在住の72歳の方（国民健康保険加入：自己負担割合2割）

- **横浜市がん検診の大腸がん検診（便潜血検査）を受診**

⇒検査の結果、「大腸がん疑い」で**要精密検査**となり、
医師から精密検査の受診を勧められた。

- 後日、精密検査のため医療機関を受診（保険診療）

⇒**大腸内視鏡検査**でポリープが見つかり、組織を採取、病理診断を行った。
医療費の**自己負担額として、7,730円（医療費総額の2割）**を支払った。

初診・再診＋全大腸内視鏡＋染色＋拡大内視鏡＋生検＋病理
1割負担：3,870円、2割負担：7,730円、3割負担：11,600円

➡ **このような場合に申請していただくことで、自己負担額を助成します。**

イメージ②

市内在住の73歳の方（国民健康保険加入：自己負担割合2割）

- **横浜市がん検診の乳がん検診（マンモグラフィ・1方向撮影）**

⇒二次読影の結果、「乳がん疑い」で**要精密検査**となり、
医師から精密検査の受診を勧められた。

- 後日、精密検査のため医療機関を受診（保険診療）

⇒**マンモグラフィの2方向撮影と超音波検査**を実施、石灰化の
ある病変の組織を採取、病理診断を行った。

医療費の**自己負担額として17,690円（医療費総額の2割）**を支払った。

初診・再診＋マンモグラフィ＋超音波＋生検＋病理
1割負担：8,840円、2割負担：17,690円、3割負担：26,530円

➡ **このような場合に申請していただくことで、自己負担額を助成します。** 12

主な精密検査項目

検診種類	主な精密検査
胃がん	胃内視鏡検査、生検
大腸がん	大腸内視鏡検査、生検、注腸造影検査
肺がん	胸部C T検査、気管支鏡検査、生検
乳がん	マンモグラフィ検査、乳房超音波検査、針生検
子宮頸がん	コルポスコープ（膣拡大鏡）、組織診、HPV検査

助成の対象となる方と開始時期

■ 対象者（①～③を満たす方）

- ① 令和7年4月1日時点で満70歳以上の方（昭和30(1955)年4月1日以前生まれ）
- ② 横浜市がん検診を令和7年1月1日以降に受けた方
- ③ 横浜市がん検診の結果、医師から精密検査を受けるよう説明を受けた方

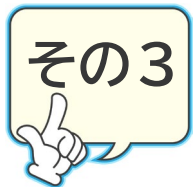
■ 対象経費

横浜市がん検診（胃、肺、大腸、乳、子宮頸 ※前立腺を除く）を受け、
国が定める標準的な精密検査を受けた場合の医療費の自己負担額

■ 受付開始

令和7年1月

※具体的な手続き方法は、後日ご案内します。



がん検診を受けやすく

便利な検索サイトを11月1日から新たにオープン!!

市内 約1,400か所のがん検診実施医療機関を
様々な条件で検索できるようにしました

【スマートフォン検索画面イメージ】

年齢/性別

i 年齢について

年齢 性別

検診の種類

i 胃がん・乳がん
検診の注意事項

- 大腸がん（便潜血検査）
- 胃がん
- 肺がん（胸部エックス線検査）
- 子宮頸がん（細胞診検査）
- 乳がんマンモグラフィ検査
- 前立腺がん（血液検査）

路線/地域

路線から選ぶ 区から選ぶ

路線 駅

- 年齢・性別を選択することで受けられる検診だけが選択可能に

新たに収集した情報に基づく検索を実現

- 鉄道路線や最寄り駅、医療機関所在地から検索が可能
- 土日祝日実施など、条件を追加した詳細な検索が可能

詳細条件

- 土日祝日実施
- 夜間実施（18時以降）
- web予約
- 子ども連れ受診
- 女性技師対応（乳がんマンモグラフィ）
- 外国語対応
- 車いすでの受診
- F A X 予約（電話対応困難な方）
- 国保特定健診と同時受診
- 生活保護法指定医療機関

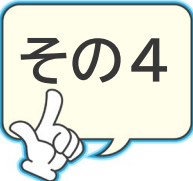
【検索結果】



○医療機関が公開している
webサイトへのリンク

○所在地に基づき地図サイトへ
直接リンク

○スマホであれば、電話番号を
タップすることで医療機関へ
直接連絡可能



全国初

遺伝性乳がん卵巣がん症候群（HBOC）検査の助成

HBOC：Hereditary Breast and Ovarian Cancer

- がんの原因の多くは環境要因（年齢、喫煙、飲酒、食生活、感染等）
ごく一部のがんが遺伝要因
- HBOCは遺伝要因の代表例で、高い確率でがんを発症することが知られている。若年でも発症の傾向あり

生涯でがんになり患する確率（累積がんり患リスク）			
乳がん（女性）	全体※1	11.2%	8.9人に1人
	HBOC※2	46～87%	2.2～1.2人に1人
卵巣がん	全体※1	1.6%	62.5人に1人
	HBOC※2	39～63%	2.6～1.6人に1人

※ HBOCは乳がん、卵巣がん、すい臓がん、前立腺がんなどのがんの発症リスクがあります。

※1 国立がん研究センターがん情報サービス

※2 一般社団法人 日本遺伝性乳癌卵巣癌総合診療制度機構「遺伝性乳がん卵巣がん（HBOC）をご理解いただくために ver.2022_2 HBOCはBRCA1保因者のみ

親・子・きょうだいがHBOCである、18～69歳の方の

遺伝カウンセリングや遺伝学的検査を受ける費用助成
を11月1日から開始（対象は6年4月1日以降のもの）

補助スキーム（予定）	対象経費	補助率	上限額
遺伝カウンセリング	自費診療で支払った額	7/10	1万円
遺伝学的検査	自費診療で支払った額	7/10	3万円

自費でのHBOC検査実施医療機関

市内の検査実施医療機関(五十音順)

神奈川県立がんセンター

けいゆう病院

済生会横浜市南部病院

昭和大学藤が丘病院

昭和大学横浜市北部病院

聖隷横浜病院

横浜市立市民病院

横浜市立大学附属市民総合医療センター

横浜市立大学附属病院

横浜労災病院

女性、高齢者、がんのリスクが高い人など、
それぞれに必要な早期発見の取組を通じて
市民の皆様のウェルビーイングを支えます。